



## ボツリヌス学会に参加して

訓練科 理学療法士 杉浦眞紀

9月30日（金）、10月1日（土）に東京コンベンションホールで行われた第3回日本ボツリヌス治療学会学術大会に、当センター痙縮治療チームの長澤医師、蔵野医師、齋藤医師、佐々木看護師とともに参加してきました。

ボツリヌス治療とは緊張が高くなりすぎる筋肉にボツリヌス菌から作られた薬剤を注射して、筋肉の緊張を緩和させるものです。

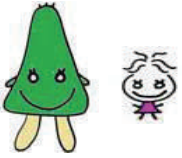
アメリカで開発され、適応症の拡大とともに国内でも複数の診療科で広く行われるようになってきましたが、脳性麻痺などに対する治療は2011年から始まり、効果的な治療方法について日本でも多くの研究がなされているところです。

今年の学会の主題1は「適応拡大に向けて新しい使用アイデア」で、痛みや過活動膀胱、強皮症に伴うレイノー現象、手掌多汗症に対する治療報告があり、主題2は「訓練士の考えるボツリヌス治療」で、リハビリテーション医療に携わる理学療法士や作業療法士からボツリヌス治療効果を生かしたりハビリの進め方や成果について多くの報告がありました。

当センターからはこの主題2で「重症心身障害児者施設長期入所者のボツリヌス治療における多職種連携の重要性」という演題で、一症例の治療における看護師と理学療法士それぞれの役割を佐々木看護師と杉浦が報告しました。シンポジウムでは「ボツリヌス治療の始め方」について脳卒中の上下肢痙縮、小児脳性麻痺の痙性尖足、多汗症、痙性斜頸、斜視、眼瞼痙攣・片側顔面痙攣などに対する治療の具体的なノウハウが懇切丁寧に示され、また、各科パイオニアから「長期使用経験における合併症・使用限界」の講演がありました。さらに、ランチョンセミナーではボツリヌス毒素の基礎や治療効果の評価方法紹介が、アフタヌーンレクチャーや夜の8時半まであるハンズオンセミナーでは視診触診・筋電図・エコー・筋解剖など基本的な技術指導が行われ、ボツリヌス治療のあらゆる側面について学べる構成でした。締めくくりは特別講演の「update 2016」で、世界の最新情報について詳しく報告がありました。

重症心身障害児者に対するボツリヌス治療はまさに発展途上にあります。我々痙縮治療チームは学会で学んだ知見を活かして、利用者と御家族のために最適なボツリヌス治療の着実な実践を行っていかねばと決意を新たにしました。最後に今回の発表症例の治療及び日常のケアに関わって下さった職員の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。





## 第8回府中療育センター祭 ★ ★ ★ ★ ★

指導科 小峯 孝男



10月14日(金)～10月15日(土)第8回府中療育センター祭が秋晴のもと開催されました。14日【金】の発表では、オリンピックの思い出と題して、通所の皆様が、体操ニッポンのように、つり輪、鉄棒等とても上手に演技をしてくださいました。結果判定はみごと、金メダルでした。オリンピックを思い出するようなシーンでした。次に、くぬぎ分教室に通う児童の皆様が、秋祭りだよ！全員集合！と題して、舞台狭しと大きな動きでお祭りの雰囲気を出しながら、表情も良く、晴れ晴れと演じてくださいました。Annバンドはピアノ・ドラムとボーカルだけの編成のジャズバ

ンドで迫力のある演奏をすると、見学に見えていた、利用者もリズムに合わせて体が自然と反応していた方も見られました。パームエコーズはハワイアンバンド、これは南国の響きで、曲が流れると、利用者の中には、南の島に行ったような気分になった方も居たようでした。5-A病棟は、「はらぺこハンドベル」を演奏してくださいました。職員がギターと歌、利用者は、リズムに合わせて、一生懸命ベルの演奏をして盛り上げてくれました。2-A病棟は、



「英雄たち」と題して元気に発表し、会場を盛り上げてくれました。1-A病棟は、「一緒に踊ろうエビエビ カニカニ」は観客を巻き込んで踊ってくれました、もちろん、利用者も軽快なリズムに合わせて笑顔で踊ってくれた姿が、ばっちりと決まっていた。二日目の発表15日【土】は、女性3人でコントをしてくれた、こーるモッチさん、軽快なトークで会場を笑いの渦に。利用者も素敵な笑顔を見せてくれました。

全体制作のお披露目ですが、今年は、「ウルトラマンシリーズ放送開始50周年、ウルトラマンみたいな、あなたのヒーロー」と題して、カードに描いてもらい、それをお披露目しました。利用者の皆様が選んだのは、いつも身近で見守ってくれている「お父さん、お母さん」が上位でした。ジュリーズクラブは、元気良く、歌や、ダンスを皆さんの前で披露し、拍手喝采を利用者の皆様から浴びてい



ました。毎年恒例の家族会の「わたあめ」も好評でした。今年度は、「人生の節目のお祝い」には、なんと17名の方が対象でした。両日とも雨の心配も無く、利用者の皆さんが、思う存分、屋外で楽しむことができ、無事に終了することが出来ました。最後に、開催にあたって多くの方のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。来年も青空の下で開催できることを願っています。



～市民公開講座・行事食の紹介(センター祭)～

多職種で構成されている当センター摂食嚥下ワーキンググループでは例年通り体験コーナーの出店と市民公開講座を開催しました。ものを飲み込む仕組みや食べることが困難な方への援助方法などの情報提供・個別相談とともに、体験コーナーでは濃度の異なるトロミ付きの飲みものや、高カロリーゼリーを試食していただき、嚥下の仕組みや食形態などを実感できたと多くの反響がありました。また14日15日の両日、当院渥美聡医師が『重症心身障害児者と飲むこと、食べること』と題した公開市民講座を開催。加齢と嚥下機能の関係、障害に応じた摂食時の姿勢など実際の映像を供覧しながらの講座に、聴講した利用者、御家族、施設職員、一般市民からは「わかりやすかった」「食べることの大切さを改めて認識した」という感想が寄せられました。

なお利用者の方々にはセンター祭に因み、栄養科から下記のような「行事食」「創作おやつ」が提供されています。

センター祭の行事食

10月14日(金) 昼食

【メニュー】

- ・おにぎり(赤飯、わかめ、ゆかり)
- ・若鶏の唐揚げ
- ・もみじ人参、プロッコリー添え
- ・かぶの柚香あえ
- ・甘夏みかん
- ・栗のムース



センター祭の創作おやつ

10月12日(水) 15時

ココアブラマンジェ



※写真とメニューは「一口大食」皿量です。

全国重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」に参加して

栄養科 関 英人、春日 寛太郎

9月28日(水)～30日(金)に全国重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」が大阪で開催され、栄養科から2名が参加しました。

講演は、「今療養介護に求められること」、「新調理の種類と施設・環境に応じた応用と事例―人手不足を解消―」、「発達期嚥下調整食分類(案)について」がありました。

「発達期嚥下調整食分類(案)について」では、つばさ静岡の浅野一恵氏から、日本摂食嚥下リハビリテーション学会で示されている発達期嚥下調整食分類(案)についての説明がありました。

事例発表では各施設の取り組みについて5例の発表がありました。その中の1例に「熊本地震を経験して」の発表があり、ライフラインが復旧するまでの対応、非常食を使用して感じたこと、その他困ったことや課題等についての説明がありました。また、九州ブロックの施設は普段から交流があり、他の施設からすぐに援助物資が届きとても助かったことから、同じブロックの施設との連携、交流も重要であると、実際の震災を経験した立場から貴重なお話があり、当センターの災害時の対応の参考になりました。

グループ討議では施設規模別に分かれ、各施設の人材確保・育成方法、リスク管理、嚥下調整食の調製方法等についても討議しました。

3日間、全国の重症心身障害児者施設の取り組みや課題等について、さまざまな視点から活発な意見交換、情報交換が行われ、とても有意義な研修会でした。

行事食料理レシピ		記入者名( )	
道府県名: 東京都		施設名: 東京都立府中療育センター	
題名: ロールキャベツ 種別: 昼食(食事など) ロールキャベツをやわらかく食の方も食べられるよう、肉を真摯にし、キャベツを1ストロにしたいものを上からかけ、ロールキャベツに似せて提供している。			
真(実食)		写真(嚥下調整食)やわらか食	
材料名	一人当たり分量(a)	材料名	一人当たり分量
ももひき肉	30.0	牛もも肉	25.0
ももひき肉	30.0	豚もも肉	25.0
たまねぎ	35.0	たまねぎ	40.0
(凍結卵)	6.0	やまと芋	5.0
パン粉	4.0	卵(凍結卵)	6.0
乳	10.0	食パン(粉)	4.0
1	0.5	牛乳	10.0
ブタ	0.1	塩1	0.4
セバツ	30.0	ナツメグ	0.1
2	0.8	キャベツ	60.0
キンガラスープ	3.0	塩2	0.6
トマトピューレ	18.0	チキンガラスープ	3.0
トマトチャップ	1.0	トマトピューレ	15.0
スターソース	1.0	トマトチャップ	1.0
キンガラスープ	1.5	ウスターソース	1.0
		チキンガラスープ2	1.0
<b>実食の作り方</b> たまねぎをゆで、牛もも肉、豚もも肉、Aと混ぜ合わせてよく練り込む。 キャベツは芯を取り、輪でやわらかくする。 ①キャベツを巻き、塩とチキンガラスープで煮る。 ②煮終わって加熱したソースをかけて完成。		<b>嚥下調整食の作り方</b> ①牛肉と豚肉をカッターでキナーペースト状にする。 ②たまねぎをゆで、やまと芋と合わせ高速でキナーペーストにして、Aと共にカッターキナーに入れし専用容器に分ける。 ③スチームコンベクションオープンで90℃20分蒸し上げる。 ④キャベツは3mmの手切りにし、塩2とチキンガラスープを合わせて煮るまで煮て、キナーペーストに白を合わせて加熱しソースをかける。 ⑤全ての真食をカット、塩をかけ、全てのソースをかけて完成。	
平成28年度重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」資料			

## 秋の総合防災訓練

事務室 山口 裕輔



9月29日(木)府中消防署栄町出張所署員の指導により、秋の総合防災訓練を実施しました。この防災訓練は、日頃からの防災意識を高め、センターでいつ何時災害が発生しても円滑に防災対策が行えるよう職員の心構えを養い、防災に対する組織体制を整備することを目的に毎年実施しています。今回の訓練は、昼間帯に多摩直下の震度6弱の大規模地震が発生、それに伴う火災災害を想定したものでした。

地震対応訓練に続き、指導科通所での火災を想定した消火・避難訓練を行った後、消防署員による救助訓練、防災教育を行いました。

消火・避難訓練では、トランシーバーを使用した訓練を行い、火災現場と防災本部の情報共有をより緊密にする取組を行いました。

救助訓練では、消防署員による火災で逃げ遅れた場合の救助方法を披露していただきました。

防災教育では、エアーストレッチャーを使用した搬送法、消火器・消火栓による放水などを体験してもらうことで、防災意識をより一層高めてもらいました。

災害の規模が大きくなればなるほど、「自助(自分の身は自分で守る)」・「共助(力を合わせて助け合い)」が大切になってきます。職員一人ひとりの防災意識とセンターとしての防災組織の体制整備を今後とも高めていくことが重要であり、来年もこの防災訓練は実施していきます。今後とも多くの職員が参加し、防災意識をより高められる防災訓練にしたいと思います。



## 全国重症心身障害日中活動支援協議会に参加して

指導科長 笠井 剛

10月6日、7日に千葉で開催された第20回全国重症心身障害日中活動支援協議会に、通所担当職員を含め3名が参加しました。この協議会には、全国の重症児者の通園(通所)事業を実施する施設が加盟していますが、平成24年の法改正に伴う法内事業化を契機に現在の名称となりました。平成28年度は225施設が加盟し、今回は半数強の施設から約300名の参加がありました。

初日は、開会式に引き続き、行政説明、シンポジウムがありました。厚生労働省からの行政説明では、在宅重症児者支援の現状と課題について、障害者総合支援法施行3年後の見直しを踏まえての話があり、中でもNICU等を退院した医療的ケアを要する障害児の支援や、在宅の重症児者が地域生活を送るための支援体制の充実等、当センターの事業とも直接関係する事項が課題として挙げられていました。シンポジウムでは、「連携により地域で支える重症児者の日中活動」をテーマに、開催地の千葉県から、医療・福祉資源の偏在がある中で、いかに在宅重症児者の支援体制を構築するか、各種施設の取り組み等をもとに報告がありました。どのように重い障害があっても地域で支えていこうという熱意が伝わる内容で、意欲的に連携を図っていこうという姿勢に刺激を受けるとともに、施設の機能・特徴を活かした地域との連携強化の必要性を改めて感じました。

2日目は、「日中活動」「医療・看護」「家族・地域」の各分科会があり、合わせて19の演題発表がありました。全国的にも利用者の重症度が高くなる中で、安全・安心に利用者の生活を支えるとともに、いかにひとりひとりに合わせて、生き生きと輝ける活動をつくっていくのか、また、社会の一員として人や地域に関わりながら、家族も含めていかに地域での生活を支えていくのか等、実践的な報告が多く出され、会場では活発な質疑応答も交わされていました。

今回の協議会をとおして学んだこと、考えたことを、今後の通所事業、また、新センターの事業に活かしていきたいと思っています。

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>